

2018 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 4

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、本センターのレベル4（中級後半レベル）を対象とし、週3回（1回90分）開講されている必修科目である。目標は、①中級後半レベルの文章を読んで理解し、それに関連する内容について説明したり、意見を述べたりすることができるようになること、②他者の考えを知り、理解を深めることができるようになること、③話しことばと書きことばの違いについて知り、やや長い文章を書くことができるようになること、であった。主教材は『中級を学ぼう 中級中期』（スリーエーネットワーク）であり、活動に関わる副教材はオリジナル教材を使用した。週1回の作文の題材は既に学習した主教材の本文に関連した話題とし、ワークシートなどの副教材は自作した。

2. 授業内容

各課につき、授業3回分を使い、主に以下のような流れで行った。1回目：内容理解・音読、2回目：本文について事前に考えてきたことについて意見交換をする、3回目：文法説明・練習、である。主教材の第4課と6課を除く、全8課を扱った。その他、週1回は作文の授業であった。1つのトピックにつき授業2回分を使い、1回目はブレインストーミング、意見文の構成・モデル文の理解である。2回目は作文のフィードバック、修正作業である。以前は本文とは異なる題材であったが、本文で学習した語彙や文法に繰り返しあたり定着を図ることを目的とし、2017年度秋より本文の意見交換活動と結びつけた題材に変更した。

今学期の新たな試みとして、本文読解の予習を徹底させるためにワークシートを新たに作成した。更に、文法の授業前の予習シート（文法項目の基本的な助詞、活用を確認するもの）、授業後の復習シート（特に重要と思われる項目の文作成）も新たに作成し課すこととした。

3. 成果と今後の課題

最終アンケートでは概ね「満足している」が選択されている。今学期の特徴として、本文についての意見交換活動の際に、学生が自ら自国の状況を調べて意見を述べたり、発話の際に学習した語彙や表現を多く使用するなど積極的に学習に臨んだりする様子が見られた。こうした学習への態度がクラス全体に広がっていたことも高評価につながったと思われる。一方、今学期新たに作成したワークシート、修正したクイズ・試験については課題もあるため、改善する必要がある。